こども新聞
週刊かほピョンプレス
毎週日曜発行
2020 10/4
河北新報社 TEL.022-211-1111（月曜から金曜）

みんな子どもだった!?　⑦

今月の「みんな子どもだった!?」は高橋礼華さん。2016年リオデジャネイロ五輪のバドミントン女子ダブルスの金メダリストで、8月で現役を引退したんだ。聖ウルスラ学院英智中高（仙台市若林区）で過ごした6年間が、選手生活の原点となったそう。

◇

人見知りしない活発な子でした。バドミントンを始めたのは小学1年。バドミントンをやっていた母に連れられ、始めたら楽しく、他の習い事をやめて打ち込みました。

母はジュニアチームのコーチ。練習でも家でも怒られていましたが、「やめたい」と思ったことはありませんでした。

強豪校のウルスラに誘われ、奈良県を離れて中学から入学しました。「これで親に怒られなくなる」と思っていたのに、もしました。寮生活で、身の回りのことを自分でやるのも当たり前でした。

私は特別なことはしていません。金メダルを取れたことは今も不思議。ただ、私たちペアは練習を休まない、周囲に迷惑をかけないといったように、当たり前のことをやってきた。それが大切だったんじゃないかと今は思います。

引退後の目標は、はっきり決まっていません。まだ明確な目標がない小中学生も、いろいろなことに挑戦し、自分に合うことを見つけてほしい。目標に向かって努力することは、必ず生きてきます。周囲に流されず、やりたいことを精いっぱいやってください。

高橋 礼華さん（30歳・バドミントン女子ダブルス金メダリスト）

たかはし・あやか　奈良県橿原（かしはら）市出身。聖ウルスラ学院英智高卒業後、日本ユニシスに所属し、松友選手と「タカマツ」ペアとして数々の世界大会で優勝（ゆうしょう）。

バドミントン部の田所光男先生（現総監督）はもっと怖い。「そんなに毎日？」というぐらい怒られ、よく走らされました。

それでも父からは「行くなら最後までやり通せ」「泣いて帰ってくるな」と送り出されていたので、「6年間頑張らないと」と思っていました。

1年後輩の松友美佐紀選手（28）とペアを組んだのも、五輪出場が目標になったのも高校時代。ウルスラでダブルスの面白さを教わりました。

きょうのテーマ

みんな思い出

負けず嫌い 休まず鍛える

みんな知りたい　みんな守ろう　みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇8日（木）　はらこめしの日

宮城県の郷土料理「はらこめし」をPRするため、発祥地とされる亘理町が2016年に記念日として申請、登録されたよ。サケ漁が解禁される10月に合わせ、はらこ（イクラ）を「8」に引っかけたんだ。

きょうの紙面

2面　サイエンス
3面　3分チャレンジ
4・5面　いいね　小学校
6面　絵でわかる　こども英語
7面　投稿特集
8面　子育て・教育相談センター